

東燃ゼネラル石油株式会社

2010年12月期第2四半期決算説明会

2010年8月16日
東証アローズ



見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の現在の計画、見通しに関する事項は、日本および世界経済の動向、原油価格、円ドルの為替レート、需給の変動に大きく左右される業界の競争状況などにより影響を受けます。これらの影響により、実際の業績は本資料で記載した見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。

- 当社の基本方針と課題 P. P. デューコム
- 2010年12月期第2四半期決算概要
および通期業績予想の修正 W. J. ボガティ
- 質疑応答

当社の基本方針と課題

東燃ゼネラル石油(株)
代表取締役社長

P. P. デューコム

■ 出身地

- » リュエイユ・マルメゾン、フランス(パリ近郊)

■ 主な経歴

- » 1987年7月 エクソン・ケミカル・フランス入社
- » 石油化学部門において様々な職務経験
 - 製造 / 販売 / 供給 / 企画 / 経営
- » グローバルな職務経験
 - フランス(7年)、米国(7年)、ベルギー(4年)および日本(2007年12月着任)

■ 日本での職務

- » 現職
 - 東燃化学株式会社 代表取締役社長(2007年12月就任)
 - 東燃ゼネラル石油株式会社 代表取締役社長(2010年3月就任)
- » 現職に加え、W.J. ボガティの後任として
 - エクソンモービル・ジャパングループ代表(2010年9月1日就任予定)
 - エクソンモービル有限会社 代表取締役社長(2010年10月1日就任予定)

経営基本方針

当社の経営基本方針を継承

■ 完璧な操業の継続

- » 安全: “Nobody gets hurt” 「誰もケガをしない、ケガをさせない」
- » 環境保全: “Protect Tomorrow. Today.” 「明日の環境は、今日守る」
- » 健全な内部統制
- » コーポレートガバナンスと企業倫理

■ 効率性の追求と企業業績の向上

- » 各事業部門の強みを有機的に連携させ、全社的な効率性と収益性を追求
- » 資産の有効活用

■ 株主価値の増大

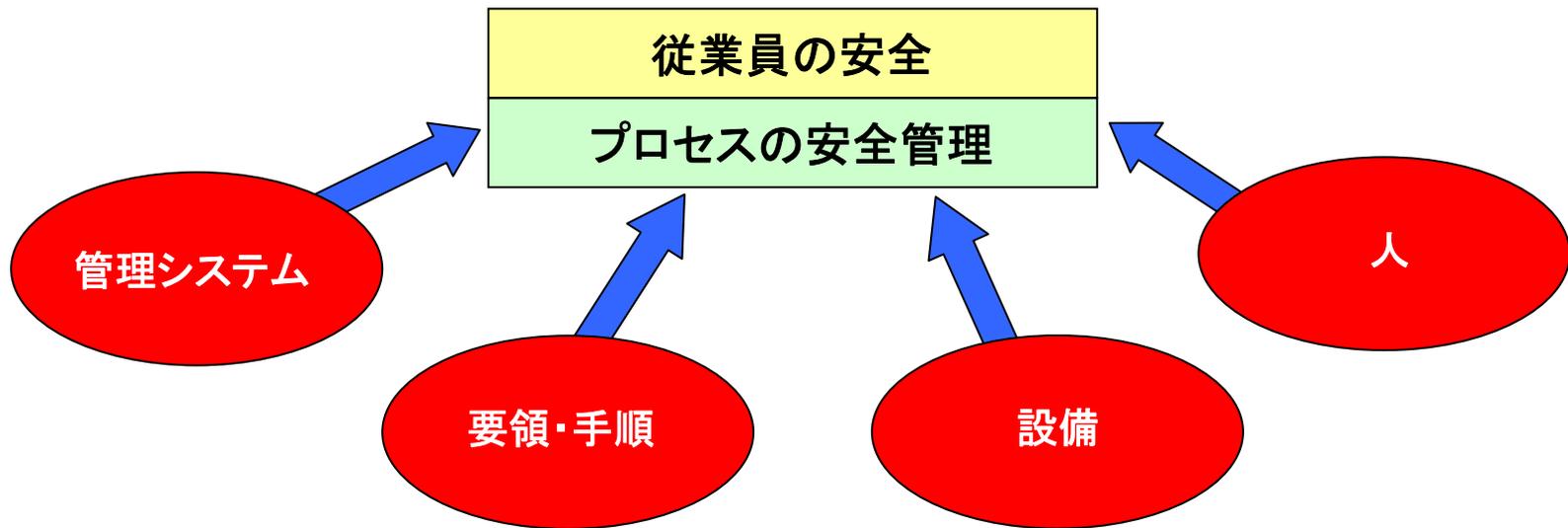
- » 長期的視点に立った事業投資と株主利益還元的最適化による株主価値の増大

< コアビジネスへの集中 >

完璧な操業の継続

安全は、当社の基盤であり一切の妥協を許さない

- 従業員の安全: “Nobody gets hurt” 「誰もケガをしない、ケガをさせない」
 - » 2004年以来、従業員の休業災害発生ゼロ
 - » 安全を文化として創りあげる
- プロセスの安全管理
 - » 「完璧操業のためのマネジメントシステム」(OIMS)によるたゆまぬ改善



効率性の追求と企業業績の向上



■ 精製・供給部門

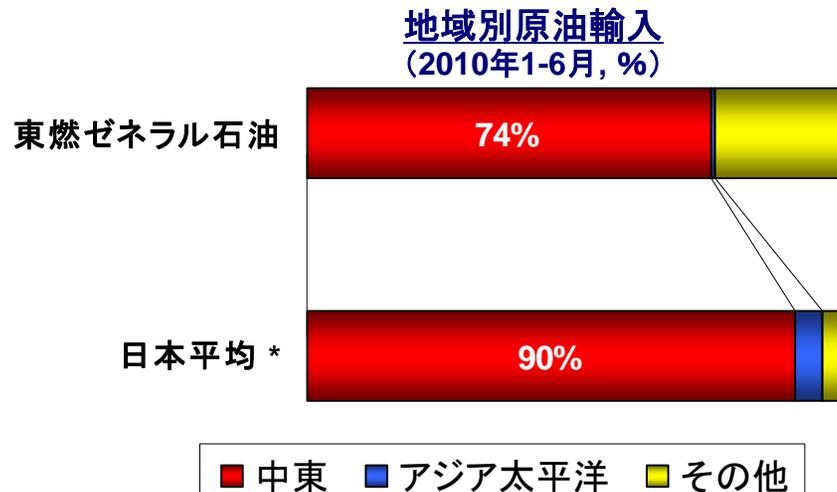
- » 調達原油の多様化と柔軟な選択の継続
- » 製油所における二次装置の最適稼働

■ 燃料販売部門

- » 生産性の最大化
 - 「エクスプレス」ブランド力のさらなる強化
 - 販売チャネルの最適化

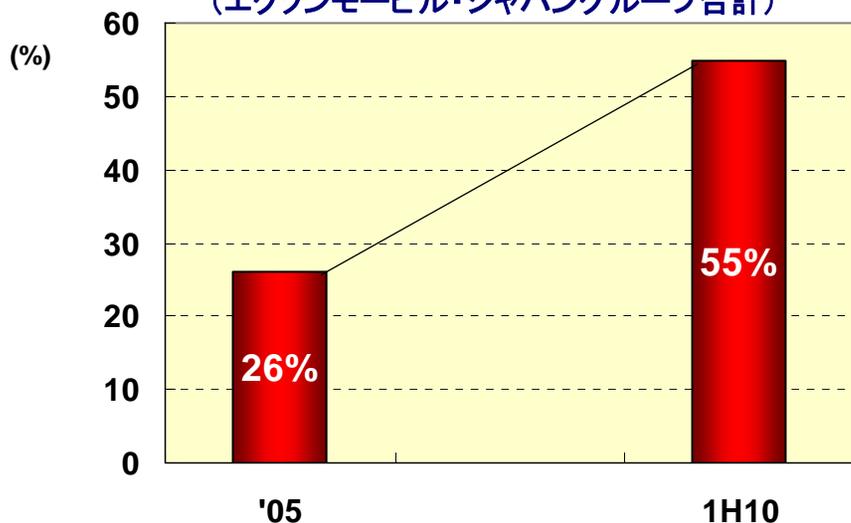
■ 石油化学部門

- » 石油精製との相乗効果の最大化
- » 原材料の多様化

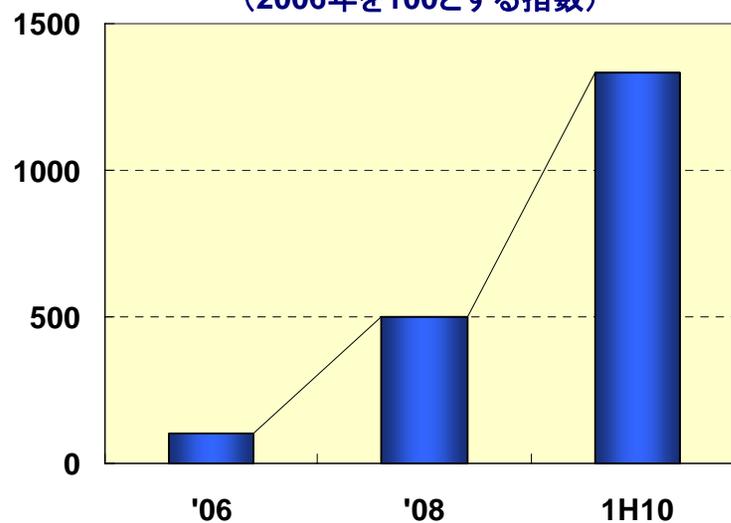


注: 経済産業省「資源エネルギー統計」のデータに基づいて作成
* 日本平均: 東燃ゼネラル石油を除く

ガソリン・軽油小売販売に占めるエクスプレス販売の比率 (エクソンモービル・ジャパングループ合計)

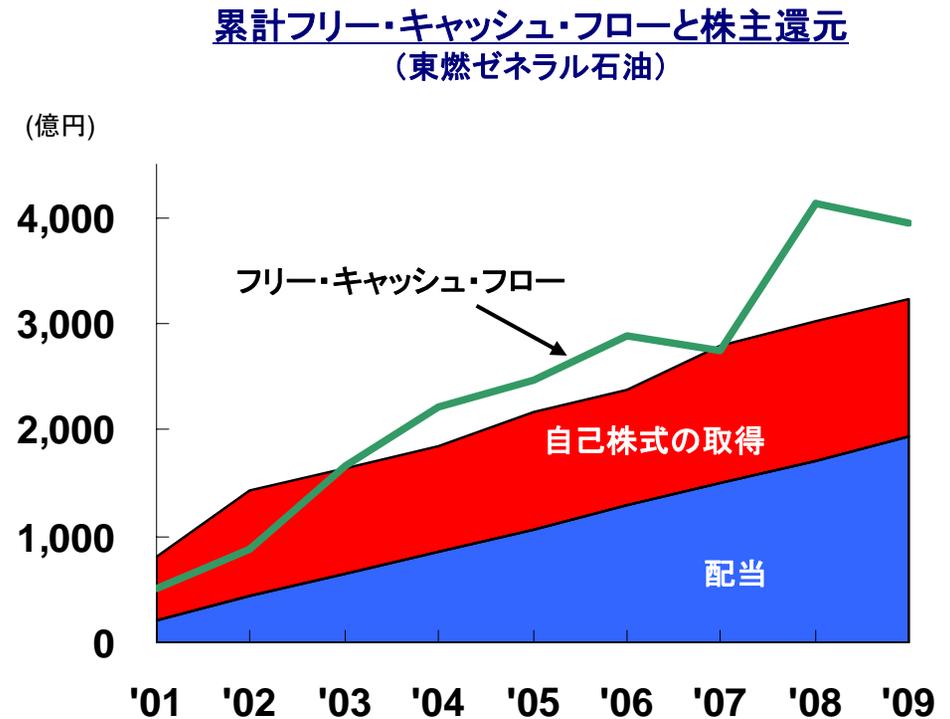
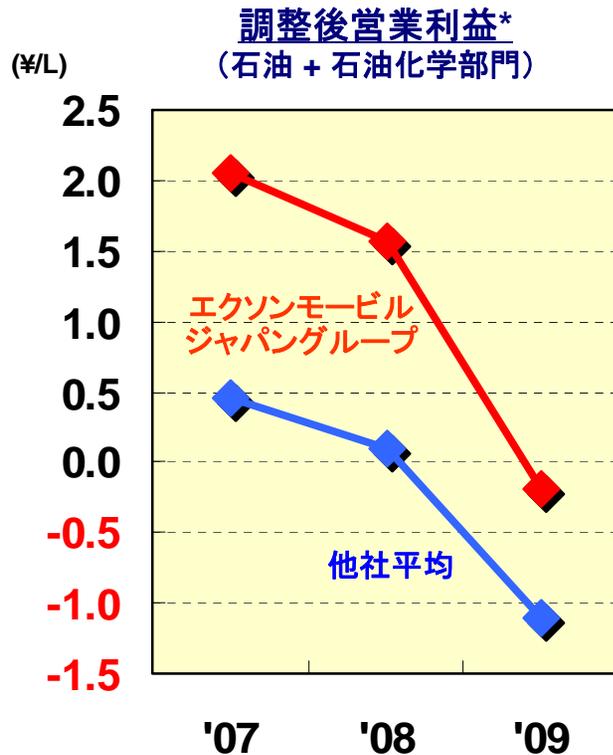


ブタン分解能力の推移 (2006年を100とする指数)



株主価値の増大

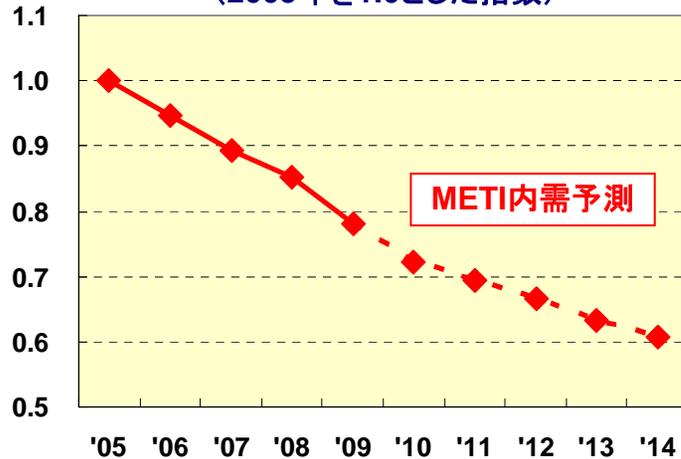
- エクソンモービル・ジャパングループの調整後営業利益(石油部門と石油化学部門合計)は、引き続き業界平均を上回る
- 会社の利益は、厳格な収益基準に合致した適切な事業機会がない場合、株主に還元すべき



* (在庫および原油コストの認識時点の差による影響を除いた石油と石油化学の営業利益) / (原油処理量)
業界他社の数字は全て公表されている決算書類から算出

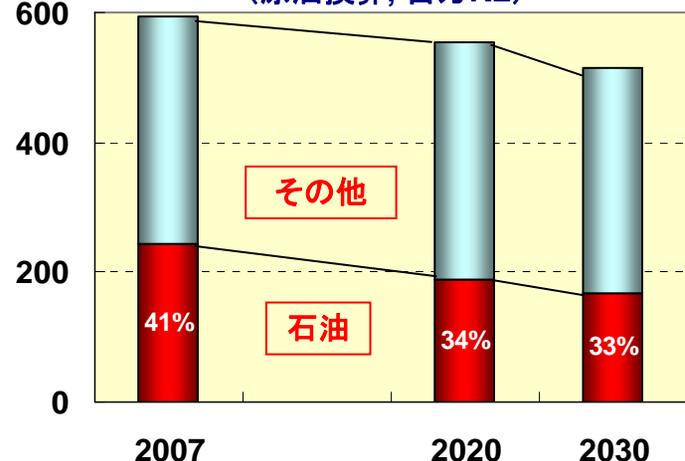
- 事業環境の構造的変化
 - » 国内石油製品需要のさらなる減退
- しかしながら、将来も石油は重要なエネルギー源
 - » 日本の一次エネルギーにおける石油依存度は、2030年度でも約3分の1と高い水準

国内石油製品需要の推移 - 主要5油種*合計
(2005年を1.0とした指数)



出典: 経済産業省「資源エネルギー統計」および「石油製品需要見通し」
* 主要5油種: ガソリン・軽油・灯油・A重油・C重油

一次エネルギー国内供給の見通し
(原油換算, 百万KL)



出典: 経済産業省「長期エネルギー需給見通し」
2020年/2030年は「政策最大導入ケース」

- 経済産業省の製油所高度化指針 - 常圧蒸留装置に対する重質油分解装置の装備率改善
 - » 重質油分解装置の能力増強か常圧蒸留装置の削減、もしくはその両方が求められる
 - » 東燃ゼネラル石油はその対応策を検討中
 - » 効率性と競争力を基準に判断すべき

気候変動に関する政策 – 当社の見解



Tonen General

- 温室効果ガス削減の長期的・包括的な解決には、技術革新が重要な要素
- 短・中期的には、温室効果ガスの排出量増加への対応策として、エネルギー効率の向上を図ることが重要
- 仮に規制的措置を導入する場合、「排出権取引」よりも「炭素税」を支持する
 - » 産業セクターを問わず、均一で予測可能なコストで公平性がある
 - » 具体的対応策の選択を、市場原理にゆだねられる
 - » 制度が簡素で管理コストも小さく透明性が高い
 - » 将来の調整が可能(税率変更等)
- バイオ燃料の導入は、次世代技術が確立されるまでは以下のポイントを確認しつつ慎重に行うべき
 - » ライフサイクルアセスメントによる温室効果ガス削減効果
 - » 食料生産との競合
 - » 安定供給の確保
 - » コスト対効果の評価



さらなる進化を Lead Evolution – Move Together



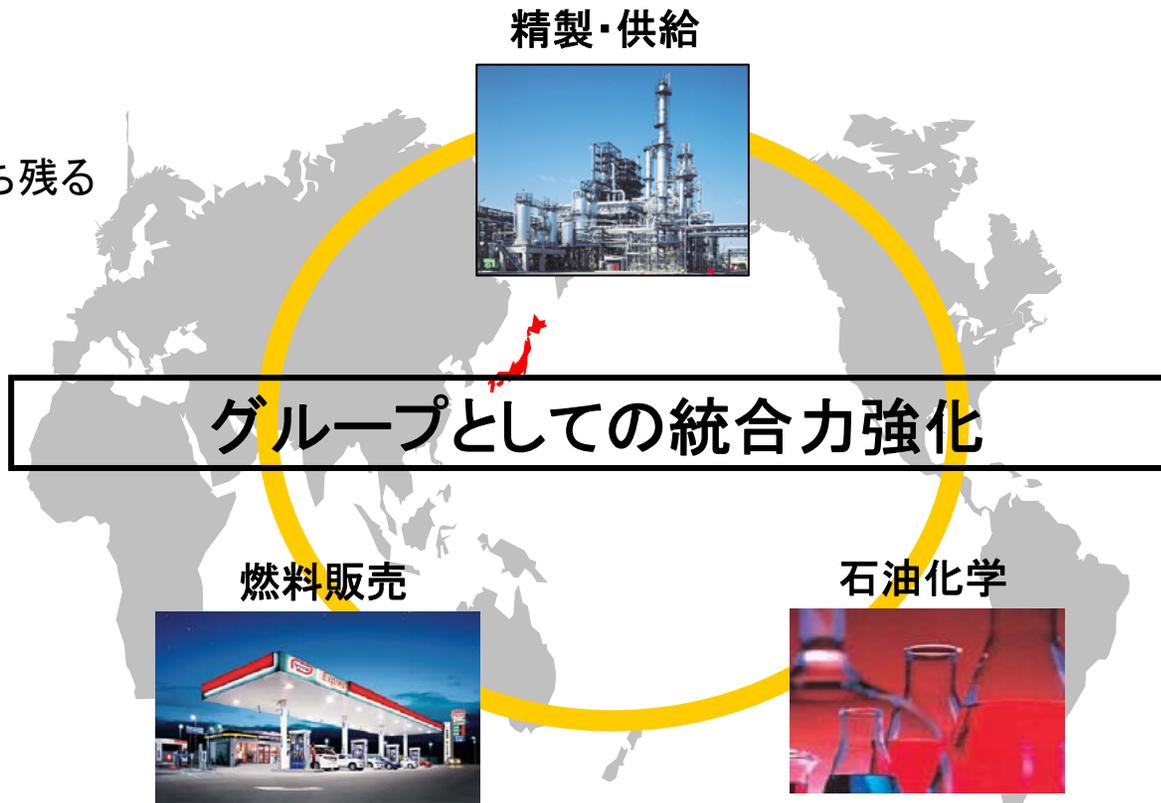
Tonen General

■ これまでの当社の基本戦略は今後も継続

- » コアビジネスへの集中
- » 良き企業市民
- » 効率性の追求
- » 株主価値の増大

■ 今後は

- » 大きな課題への挑戦
- » 最も効率性の高い者が勝ち残る



2010年12月期第2四半期決算概要 および通期業績予想の修正

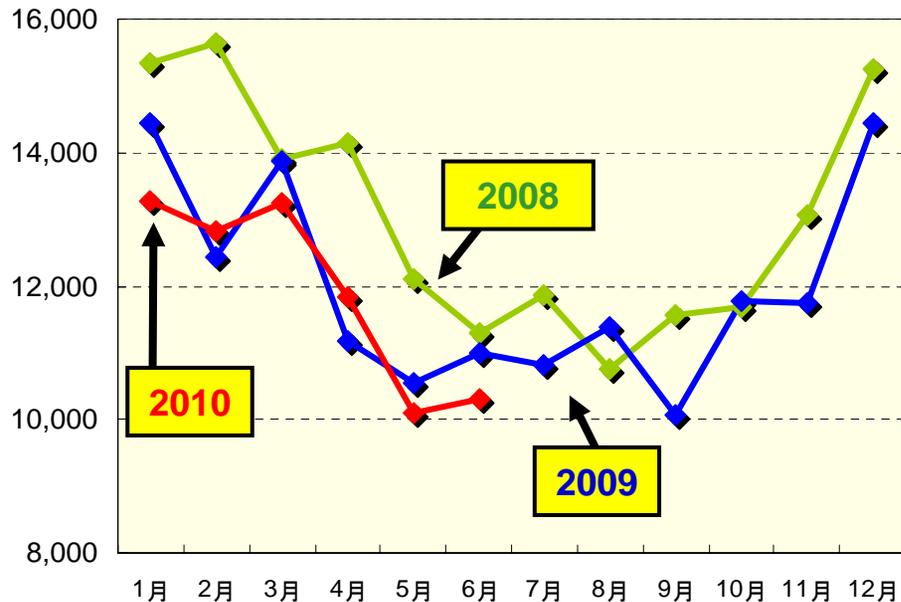
東燃ゼネラル石油(株) 代表取締役常務取締役
エクソンモービル(有) 代表取締役社長

W. J. ボガティ

事業環境の動向

- 2010年4-6月期の石油製品マージンは1-3月期比回復、石油化学製品マージンの悪化で一部相殺
- 国内石油製品需要は前年同期比若干の減少
- 2010年1-6月期の石油化学製品マージンは芳香族類を中心に前年同期比改善
7-12月期は、アジア地域の供給増加によりマージン悪化の懸念

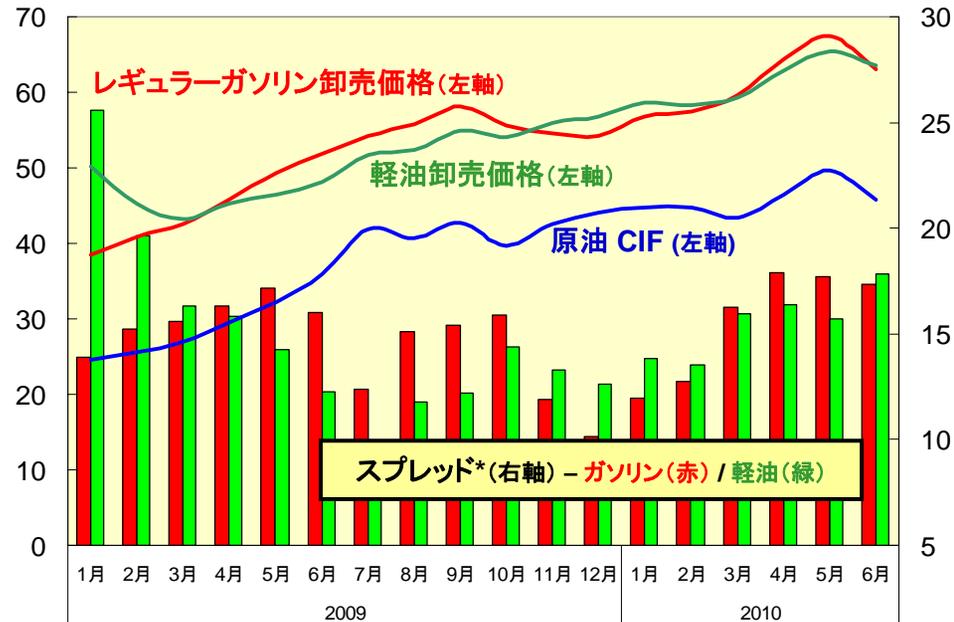
国内石油製品需要の推移(2008年~)
(主要5油種*, 千KL)



* ガソリン/軽油/灯油/A重油/C重油

出典: 経済産業省「資源エネルギー統計」

原油と石油製品価格の推移(2009年~)
(原油CIFとガソリン/軽油卸売価格, 円/リットル)



* スプレッド: 卸売価格 - 原油CIF

注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

決算ハイライト



- 2010年1-6月期(当期)の営業利益は前年同期比245億円の改善
- 在庫関連利益、原油コスト認識時点の差による影響を調整後の営業利益は、前年同期比96億円の減少:1-3月期の石油部門損益の悪化を、石油化学部門損益の改善で一部相殺
- バッテリーセパレーターフィルム(BSF)合併会社設立に伴う202億円の利益を特別利益として1-3月期に計上

(億円)	'09 1-6月期	'10 1-6月期	増減
売上高	9,646	11,730	2,084
┌ 営業利益	-109	136	245
経常利益	-107	148	255
特別損益	-9	195	205
当期純利益	-64	286	350

┌ 在庫関連利益の調整	-72	-93	-21
┌ 原油コスト認識時点の差による影響額の調整	330	10	-320
└ 調整後営業利益	149	53	-96
└┐ 石油部門	151	-25	-176
└┐ 石油化学部門	-2	78	80

- 当期の売上高は、平均原油価格の上昇により、前年同期比22%の増加

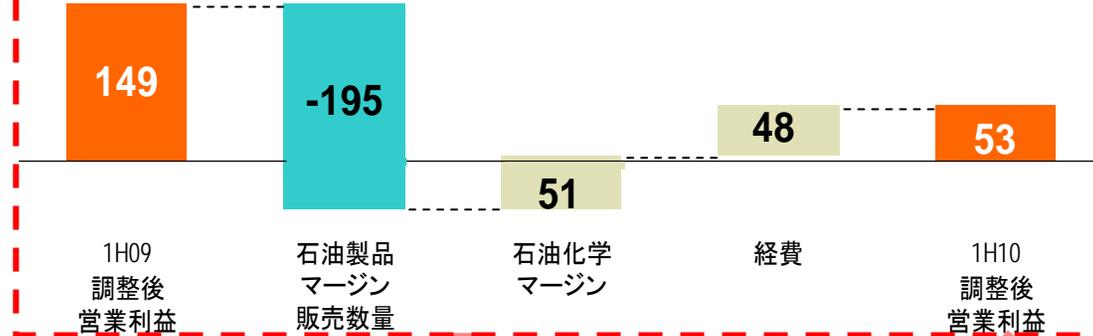
営業利益増減の要因分析(1)

[1-6月期連結営業利益、前年同期比]

- 当期の対前年同期比較において、1-3月期と4-6月期を分けて分析することでより明確に
- 前年4-6月期以来の低調な石油製品マージン環境が当4-6月期に回復したことにより収益が改善

(億円)

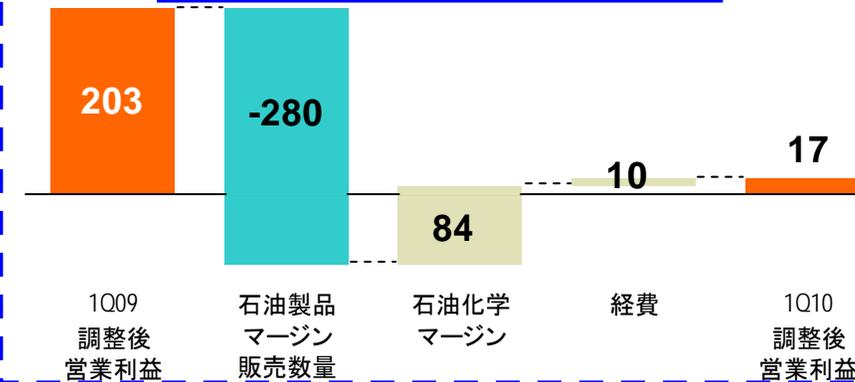
'09 1-6月期 vs. '10 1-6月期



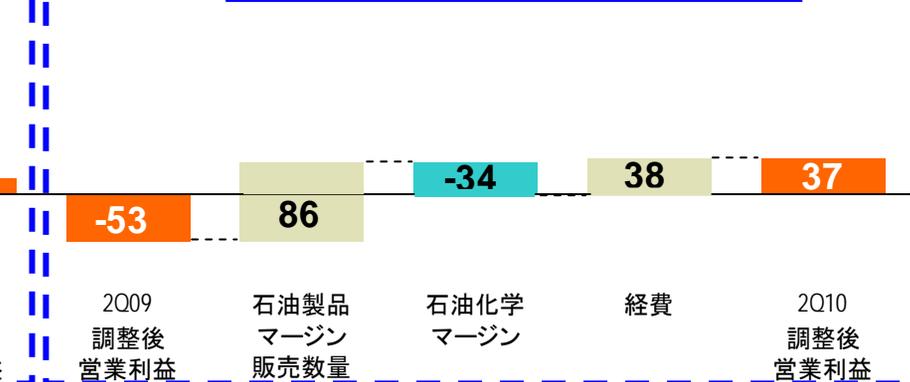
2009年	1-3月期	4-6月期	1-6月期
営業利益	131	-239	-109
+ 在庫関連損益の調整	-18	-54	-72
+ 原油コスト認識時点の差による影響額の調整	90	240	330
調整後営業利益	203	-53	149

2010年	1-3月期	4-6月期	1-6月期
営業利益	184	-47	136
+ 在庫関連損益の調整	-187	94	-93
+ 原油コスト認識時点の差による影響額の調整	20	-10	10
調整後営業利益	17	37	53

'09 1-3月期 vs. '10 1-3月期



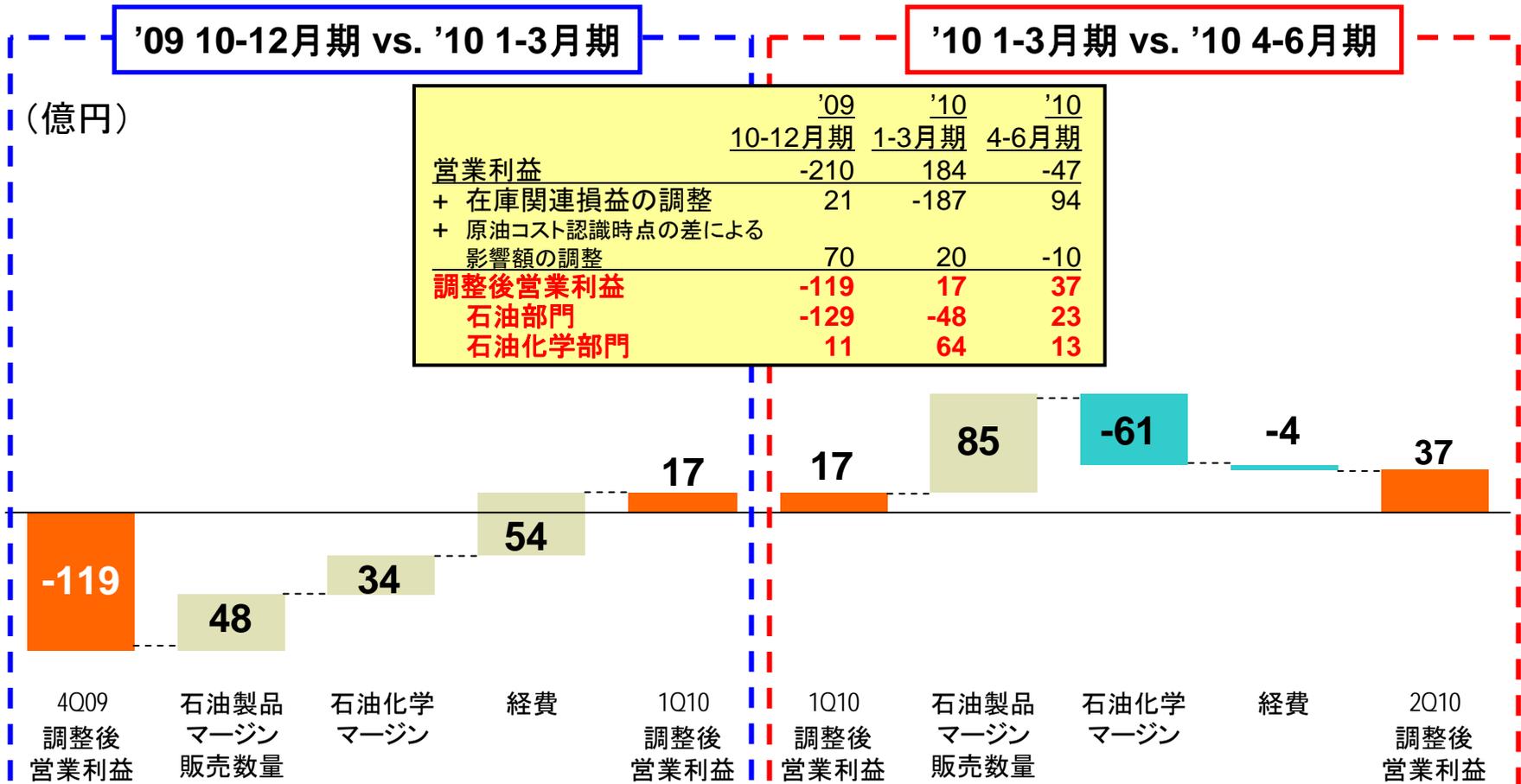
'09 4-6月期 vs. '10 4-6月期



営業利益増減の要因分析(2)

['10 4-6月期連結営業利益、'10 1-3月期 / '09 10-12月期比]

- 当4-6月期の石油部門における調整後営業利益は、足元のマージン改善を反映して前年1-3月期以来の黒字回復
- 当4-6月期の石油化学部門の営業利益は、芳香族類を中心にマージン環境が悪化したことにより、1-3月期に比べて減少



販売数量

- 販売チャネル毎の収益性を引き続き注視
 - » 主要5油種の国内販売数量は引き続き減少
 - » 年初の厳しいマージン環境により輸出数量は大幅に減少
- 2010年5-6月の川崎工場の定期修理に伴う製品供給量の減少
- 石油化学製品の販売数量は安定的に推移、前年1-3月期の需要低迷期から全体的に回復

石油製品*

(千KL)

日本国内での販売数量

	'09 1-6月期	'10 1-6月期	増減	国内全体 増減****
ガソリン	5,168	4,884	-5.5%	+0.1%
灯油	1,522	1,344	-11.7%	+2.7%
軽油	1,428	1,424	-0.3%	-0.3%
A重油	1,033	953	-7.7%	-4.5%
C重油	716	785	+9.7%	-18.4%
主要5油種合計	9,866	9,391	-4.8%	-2.5%
LPG その他	1,255	1,268	+1.0%	
小計	11,121	10,659	-4.2%	
輸出**	2,683	1,884	-29.8%	
その他***	1,670	1,645	-1.5%	
石油製品合計	15,474	14,188	-8.3%	

注記:

- * 連結ベース、バーターを除く
- ** 保税販売を除く
- *** 潤滑油、原油、国内のエクソンモービルグループ内の転送取引などを含む
- **** 出典: 経済産業省「資源エネルギー統計」

石油化学製品 (連結)

(千トン) オレフィン類他(東燃化学分)	791	849	+7.4%
芳香族類他(東燃ゼネラル分)	395	410	+3.8%
石油化学製品合計	1,185	1,259	+6.2%

設備稼働率(常圧蒸留装置ベース)	76%	68%	75%
------------------	-----	------------	-----

業績予想 [連結]



2010年通期連結業績予想は前回発表時から上方修正

- › 足元の好調な石油製品マージンを反映して石油部門の調整後営業利益は改善
石油化学部門の営業利益の悪化で一部相殺
- › 7-12月期には1-6月期の在庫関連利益93億円が解消されると想定するが、ほぼ同額の実質営業利益を見込む
- › 2010年7-12月期の原油コストの認識時点の差による影響はゼロと想定、すなわち2010年1-6月期に発生したマイナス10億円は通期で残ると想定

業績に影響を与える諸要因

- › アジア地域内の石油化学製品需給バランス
- › 原油価格の動向とマージンへの影響
- › 在庫の取り崩し数量とそれに伴う在庫関連利益の増減

(億円)	前回発表		実績	業績予想(今回)*	
	'10 通期	'10 1-6月期		'10 通期	'10 1-6月期
売上高	24,000	11,730		24,000	
営業利益	120	136	→	140	7-12月期は全体ではほぼゼロを想定しているが実質での黒字を見込む
経常利益	140	148		160	
特別損益	190	195		200	
当期純利益	290	286		300	
<hr/>					
在庫関連利益の調整	0	-93	→	0	7-12月期にマイナス93億円を想定
原油コストの認識時点の差による影響額の調整	20	10		10	
調整後営業利益	140	53		150	
↳ 石油部門	30	-25	→	60	7-12月期にプラス85億円を見込む
↳ 石油化学部門	110	78		90	

* 2010年6月平均ドバイ原油価格74ドル/バレル、為替 91円/ドルを前提に算出

キャッシュ・フロー, D/Eレシオ [連結]

(億円)

営業活動

税引前純利益	343
減価償却費	130
持分変動損益	-202
法人税等の支払	-15
運転資本の変動等	-439*

投資活動

-95

財務活動

278

借入金の増加	386
配当金の支払	-108

現預金の増減

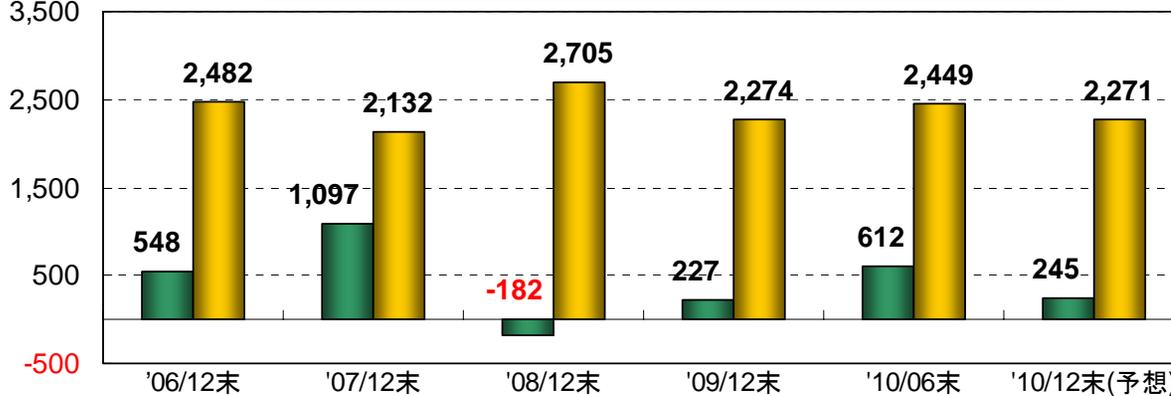
0

'10 1-6月期

-183

- 一時的な運転資本の季節的変動により借入金は増加
- 競争力のある強固な財務体質

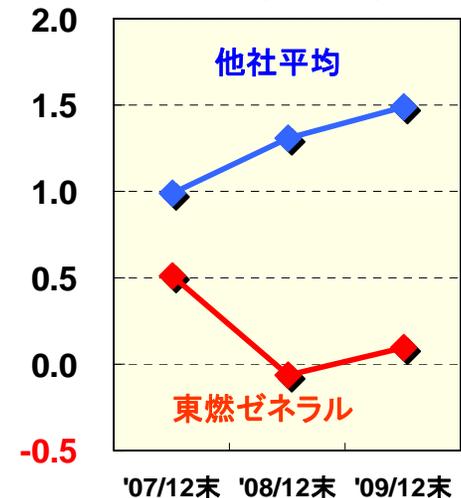
(億円) ネット借入、資本およびネットD/Eレシオ('06末 - '10末予想)



ネットD/Eレシオ: 0.22 0.51 -0.07 0.10 0.25* 0.11*

ネット借入** 資本***

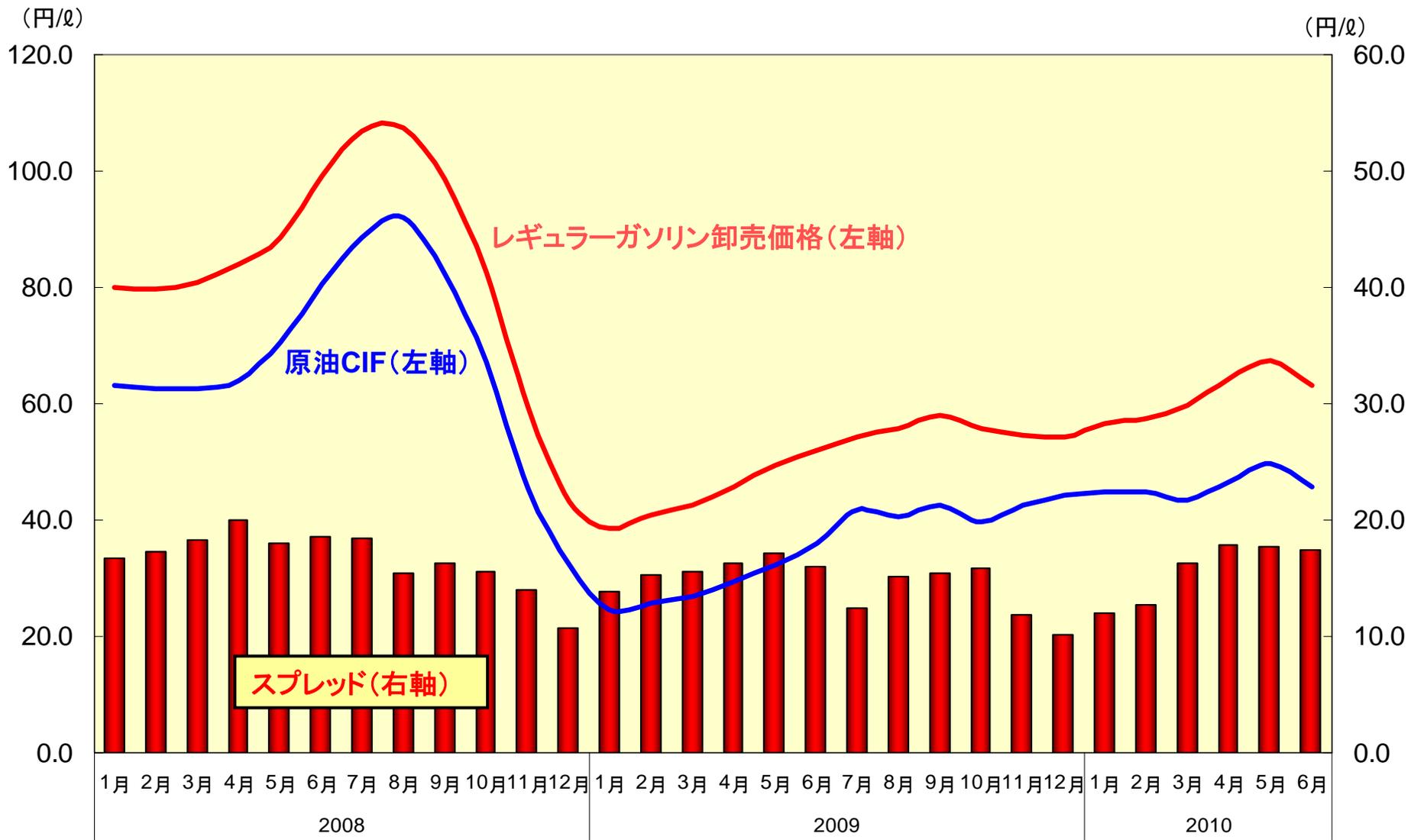
ネットD/Eレシオ ('07末 - '09末)



* 新合弁会社からの預かり金は除外して算出 ** 現預金・貸付金等の影響を除いた借入金 *** 少数株主持分を除く純資産

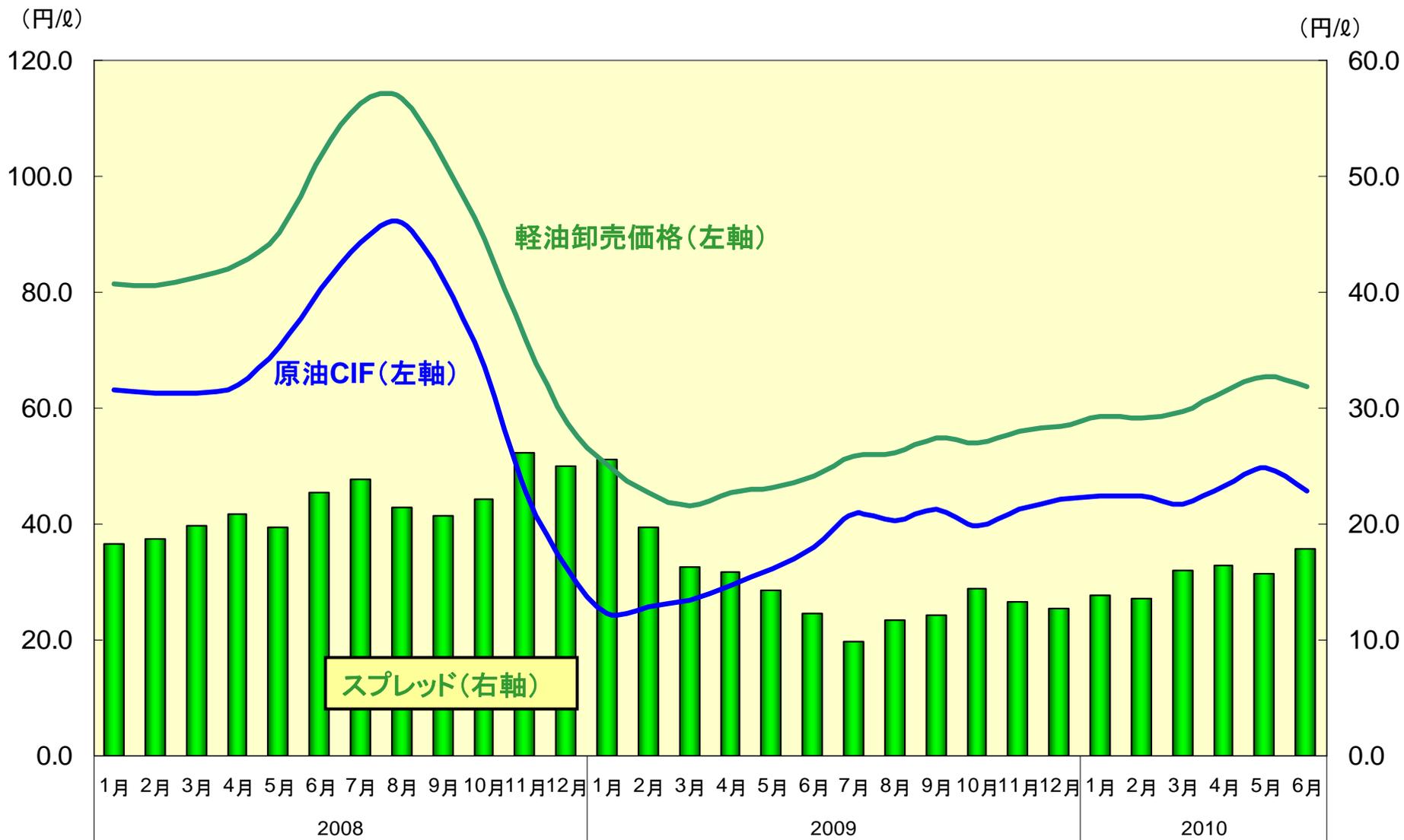
參考資料

価格スプレッド (ガソリン卸売価格 - 原油CIF)



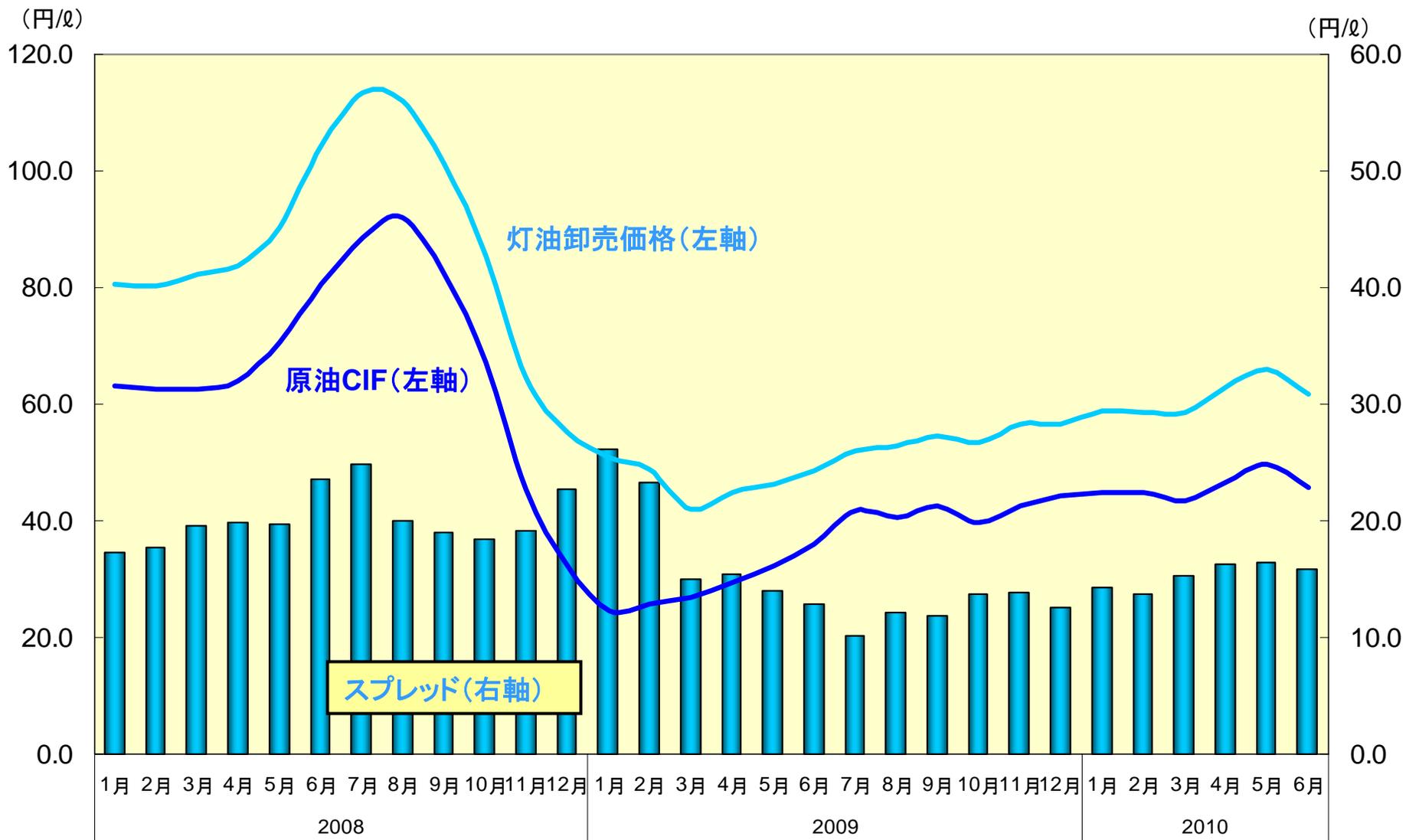
注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

価格スプレッド（軽油卸売価格 – 原油CIF）



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

価格スプレッド（灯油卸売価格 – 原油CIF）



注：石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

営業利益の詳細 (2008年-2010年4-6月期)



営業利益内訳 (単位: 億円)	Breakdown of Operating Income (Unit: 100MYen = Oku Yen)	'10 1-3月期 1Q10	'10 4-6月期 2Q10	'10 7-9月期 3Q10	'10 10-12月期 4Q10	'10 通期 FY2010	'10 1-6月期 1H10
石油部門(実質)	Oil segment (Substantial)	-48	23				-25
石油化学部門	Chemical segment	64	13				78
在庫関連利益	Inventory effects	187	-94				93
原油コスト認識時点の差による影響	Lead lag effects	-20	10				-10
総合計	Total	184	-47				136

営業利益内訳 (単位: 億円)	Breakdown of Operating Income (Unit: 100MYen = Oku Yen)	'09 1-3月期 1Q09	'09 4-6月期 2Q09	'09 7-9月期 3Q09	'09 10-12月期 4Q09	'09 通期 FY2009	'09 1-6月期 1H09
石油部門 他(実質)	Oil segment and others (Substantial)	225	-74	-130	-129	-108	151
石油化学部門	Chemical segment	-23	21	29	11	38	-2
在庫関連利益	Inventory effects	18	54	23	-21	74	72
原油コスト認識時点の差による影響	Lead lag effects	-90	-240	50	-70	-350	-330
総合計	Total	131	-239	-27	-210	-346	-109

営業利益内訳	Breakdown of Operating Income	'08 1-3月期 1Q08	'08 4-6月期 2Q08	'08 7-9月期 3Q08	'08 10-12月期 4Q08	'08 通期 FY2008	'08 1-6月期 1H08
石油部門 他(実質)	Oil segment and others (Substantial)	-114	-10	-149	355	82	-124
石油化学部門	Chemical segment	93	86	70	-110	139	179
在庫関連利益	Inventory effects	523	-327	130	-186	141	196
原油コスト認識時点の差による影響	Lead lag effects	15	-400	430	700	745	-385
資産売却に伴う利益	Gain related to divestment	110				110	110
総合計	Total	627	-650	481	760	1,217	-23